

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・来街者数が新型コロナウイルス感染症発生前ほどではないものの、その水準に近づいている。客が、単に商店街で物を買うのではなく、飲食や思い出作りの場として商店街を捉えるようになり、にぎわいを生むような利用をしている。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・気温上昇が続いているため、夏物商材について、エアコンが前年比124%、冷蔵庫が前年比103%と販売が伸びている。
	○	その他小売 〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けは、少し伸び悩んだものの、5月中旬から大きく改善し、今月は、前年に対し入館者数、売上、来客数共に10%を超える伸びで推移している。
	○	競艇場（マネージャー）	来客数の動き	・常連の年配者に加え、若年層の客が増えている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・梅雨に入り、髪がまとまらないため、ストレートパーマをかける客が増えたことに加え、ボーナス時期であることも影響し、客数がかなり増加している。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・2月に地元自治体実績のあるインフルエンサー100人を招致して発信した効果が大きく出ており、若年層の日本人観光客が連日多数訪れている。その効果により、日本で7月に災害が発生するとの噂話を信じる中国系インバウンドが大幅に減少している事象を十分補えており、商店街はにぎわいが継続している。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・前年以上の猛暑が消費に影響していることに加え、戦争や米国の関税政策も地方都市にまで大きな影響を及ぼしている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価が上昇しているなか、賃金の上昇は停滞しているため、客の消費意欲は低い状態であり、以前と変わらない状態が続いている。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較して、販売量や価格に変化はない。しかし、1ケースや1箱単位で注文していた客が、1個単位で注文するようになった。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・今月前半は、売上が非常に悪く、前年を下回っていた。しかし、20日以降は上振れして、最終的に店頭売上、外商売上共に、前年を上回った。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・3か月前と比較して来客数、買上点数、単価の傾向はほぼ変わらず、客の様子に特に変化はない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品単価の上昇に伴い、売上が増加している。青果物については、価格変動の影響は受けているものの、単価が上昇している状況が継続している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・物価は上昇しており、原価については依然上昇基調にある。それらを全て売価に反映できず、生活に直結する商品群を取り扱う企業は苦戦しており、エブリデイ・ロー・プライスやプライベートブランドなど安さへの取組に注力せざるを得ず、物価上昇分の売上増加には至っていない。
	□	スーパー（統括担当）	単価の動き	・米の価格が上昇している状況下で、安価な備蓄米や外国産米が流通しているなか、どの米がおいしいのかといった質問が、客から聞かれるようになった。安価でも、おいしくないという客の心理が目立っている。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・備蓄米の放出により、一時的には客の不安が軽くなったが、米国の関税やイランの動向など、世界的な不安材料もあり、経済や消費者心理は落ち着いていない。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・備蓄米放出は焼け石に水であり、継続的な第1次産業を支える政策が必要である。
	□	コンビニ（総務）	販売量の動き	・売上の前年比は、3か月前と比べると同程度である。

	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・衣料品販売では、客数が目に見えて減少しており、来店客の購入意欲が明らかに減っている。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種は受注停止で、その他の車種も長納期化している。
	□	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・客の購買意欲に大きな変化はない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・酒類関係の値上げがあってから、売上は余り上昇していない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・余り変化はなく、実車率等も変わっていない。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・前年比の来客数の増減に大きな変動はない。
	□	設計事務所（所長）	お客様の様子	・業績が好調な企業と苦しい企業の2極化が進んでいる。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・米の価格の上昇が続いていたため、客はぜいたく品の買い控えや安い商品から贈物を選んでいる。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・アルコール飲料の値上げ以降、飲食店への納品が減少し、ワインなど値が張る商品の動きは停滞している。
	▲	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・前年にインバウンドが大幅に増加したことから、4月以降、インバウンドは前年と比較して大きく減少した。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・芸術祭の春会期終了に加え、自社の販売促進施策の一部を変更したことがマイナスに作用し、来客数が前月比で減少した。
	▲	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・5月以降、来客数が前年割れとなった。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上は前年を超えているが、来客数は前年割れである。しかし、物価上昇のため売上は増加している。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上は、商品価格の上昇に伴い、順調に推移しているものの、物価上昇に所得の上昇が追い付いていないことから、来客数や来店頻度が減少している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前年より雨の日が少なかったにもかかわらず、梅雨の時期で、雨の日や蒸し暑い日が多く、来客数が減少した。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年比ではマイナス7%程度で推移しており、非常に厳しい状況である。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材も思ったほど売れず、通常商品も買い控えられている。
	▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・毎年、連休明けの6月は売上が伸び悩むが、今年は前年を下回っている。来客数は若干増加しているが、客単価が下落している。客は、外食の機会は減らしたくないが、出費を抑える傾向である。
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・現状の集客は好調であるが、国内旅行者数が少しずつ減少している。大阪・関西万博に客が取られている。
	▲	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・客の先行き不安の心理から、地元宴会を始めとした飲食利用者の動きが低調である。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響で、生活が厳しい話題が多い。
	×	*	*	*
	◎	—	—	—
企業 動向 関連 (四国)	○	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・食品業界において、得意分野に特化した資源集中により業績が改善している。結果として、ボーナスのアップや契約社員への一時金等といった利益の分配が行われている。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年をやや上回る結果である。要因はインバウンド需要である。都市部だけでなく、地方にもインバウンドが押し寄せ、彼らの好みに合わせた商品がよく売れている。店舗では、飲食関係と雑貨土産品が売れ筋の中心であり、これまで扱っていなかった店舗からも新規の雑貨取引の要請があり、販売先が増加している。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量に回復の兆しがあるが、材料費の価格上昇も継続しており、今後も価格転嫁に注力が必要である。

	○	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・県内企業からの新規受注が増えてきている。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・日本では、大規模工事が実施、計画されているものの、慢性的なオペレーター不足や資材価格高騰等の影響を受けている。海外では、一部地域を除き、ここ数年の急速な需要増加傾向に落ち着きが見え始めている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、公共工事の発注が非常に少ない。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きく変わる雰囲気はない。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・売上は、前年比では上昇しているが、3か月前と比べると減少している。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・物価が上昇しているものの、3か月前と特に変化はない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・業績が良くも悪くも変動がない。
	▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・おおよそ前年数字から5～8%のマイナスが続いており、改善される兆しがない。
	▲	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・産業機械部品の受注が減っている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーの設備事業では、受注が大変少なく、景気が悪い。営業活動に注力することで、何とか事業を継続できている状況である。客も決断がなかなかできていない。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・金利や土地、建物価格の上昇で非常に厳しい状況である。
	×	—	—	—
	×	—	—	—
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者がなかなか増加しない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・景気は下降方向ではあり、ここ3か月では下降したままの状況が続いている。
	□	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・人手不足の状況が継続しているなかで、求人数の伸びは緩やかである。
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・周辺企業の採用状況において、県内に本社がある多数の企業は、新卒採用で予定人数を確保できていない。採用予定人数の充足のめどは立っておらず、それらの企業の業績は厳しい状況が続く。
	×	—	—	—